

愛知県美術館は、国内外の近現代美術を中心に、質・量ともに充実したコレクションをもつことが自慢です。2009年3月現在で、7,400点近い作品を所蔵しており、毎年、その数を増やしています。今回は、こうした所蔵作品の収集の仕組みについてお話します。

作品を収蔵するやり方には、購入（お金を払って買う）と、寄贈（無償でいただく）があります。購入はもちろん、寄贈の場合でも、作品の管理自体にお金や人手がかかり、収蔵庫のスペースも限られるため、制限なく受けられるわけではありません。購入でも寄贈でも、美術館の収集方針にそった作品を選んで収蔵することになります。

愛知県美術館の収集方針は、次のとおりです。

- ・ 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・ 現在を刻印するにふさわしい作品
- ・ 愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・ 上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

21世紀となった今では、20世紀美術はもちろん、「現在を刻印するにふさわしい作品」に力を入れて収集しています。また、3,285点の木村定三コレクションは、愛知県のコレクターである木村定三氏の旧蔵品をご寄贈いただいたもので、これにより美術館の所蔵作品にさらなる広がりが生まれています。作品の収集に当たっては、既に所蔵している作品との兼ね合いや、展示での活用のしやすさなども大事なポイントとなります。

学芸員は、日頃から、美術館で収蔵するにふさわしい作品の情報収集につとめています。毎年、それらを吟味・厳選して、その年に収集する作品の候補を決めます。収集候補作品については、学芸員が分担して、来歴や文献、市場価格などを調査し、愛知県美術館のコレクションの中に位置付けた調書を作成します。その上で、当館としてそれらを収蔵することが適切かどうかを、「収集委員会」を通じて外部の専門家の方々に審議していただく制度をとっています。

昨年度は、新たに25点の作品を収蔵しました。中でも、安井曾太郎《パンと肉》は、日本近代洋画の分

野では久しぶりの収蔵です。フランス滞在中の 1910 年に制作された、安井の自信作です。12 月 20 日(日)まで、所蔵作品展でご覧いただけます。



↑ 安井曾太郎《パンと肉》。これで、愛知県美術館にある安井の油彩画は 3 点になりました。



↑ 川瀬巴水の木版画のコレクション。一昨年度にご寄贈いただいたもので、こちらも 12 月 20 日までの所蔵作品展で展示中です。

(M. Ma)